

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「この売りは？」との問いに「畑があることです。食事とお茶の時間以外は利用者さんに自由にしてもらっています。」との即座な答えの通り、利用者の穏やかな、落ち着いた雰囲気はきっとその思いの反映か。

リビングルームには菜園の種まき、収穫日程が表にして皆の見える位置に掲示されている。こんなに作物が植えられているのだと感心する。

「今日はお天気がいいので収穫祭。芋掘りをしましょう」畑に出られない人はベンチで収穫の監督。中腰は不安定と思える方がなんと見事に掘った芋を袋に入れしっかり参加。今度は収穫した芋の利用を考えているのかな。利用者の重度化が進み、家事の手伝いへの参加も段々少なくなっている。その中で、食べる楽しみはいつまでも持ってもらいたい。この畑で収穫する楽しみ、その作物で何を作るか献立と調理の楽しみ、そして、それを皆で食べる幸せを感じてもらおう「きっかけ」を増やしていきたいと目標に掲げている。生活リハビリを感じさせられる。

自然の中で自分から積極的に出来ているのが、きっと利用者の落ち着いた、表情に表れているのだろう。この状態の維持を願うホームである。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

自然の中でうまく機能しているが、将来を見据えて、プラン、実行、評価と記録を職員全員で検討して今後に残してもらいたい。具体的な記録方法、記入要点、何が重要か等は職員会議にて検討し試行錯誤して、ホーム独自のものを確立していただきたい。地域に認知症の情報の発信する拠点となり、この地にしっかりと根を張っていただきたい。運営推進会議も活用し、ホームの活動を知ってもらって欲しい。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	生活リズムとしては、3度の食事とお茶タイム以外は自由で好きなように過ごしている。歌の好きな利用者が歌えば、皆で歌ったり、このホームの向かい側の畑に行き、その周辺を散歩する。また、利用者の一人ひとりに「どお?」「だいじょうぶ?」と声かけをすることにより、話をしなかった利用者も少しずつ気持ちを表現するようになり、話が出来ようになっていく。排泄を失敗して着替えを終えた人が「ありがとう」と言い、素直な気分してくれる雰囲気がある。いつでも職員と利用者が冗談を言ったり、楽しい会話をしている。		
	農作業の経験者が何人もいて、近くの畑に苗を植えたりして、散歩しながらその成長を見守る。収穫がまた楽しみ。芋掘りをしたが、形も大きさも様々、経験のある人、ない人も一緒に楽しめた。敷地内には柿が実り、それを吊るす柿にしている。皮を剥くのは利用者、器用に慣れた手つきが経験を物語っている。与えられて、励まされてやるのではなく、自発的に体を動かしていることが機能維持にとっても有効的だと思われる。家計の助けになるくらい作って、食べている。一石二鳥で羨ましい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	緑に囲まれた山里にある集落の一角に位置し、秋祭り、とんど祭りに参加していたが、多くの住民と顔を合わす機会が少なかった。この夏、グループホームの庭を会場にして、家族と地域の人々が一緒に夕涼み会を開催した。「楽しかった。また来年もやりましょう」と反響も高まり、地域の人々との交流が進んでいる。これから地域密着型サービスとしてのホームの第一歩を踏み出したといえよう。		
	また、家族、地域の人々が加わった運営推進会議を利用して、認知症ケアとサービスの質の向上に向けて発信して、リーダー的な存在になって欲しい。		

事業所名 グループホーム 美和

日付 平成18年12月12日  
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 老人保健施設介護実務経験6年、  
居宅支援事業所介護支援専門員経験6年  
評価調査員 在宅介護経験12年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「自分らしさの維持、出来る事は自分で、自信と生きがい、なじみの関係」を理念に自由さの中に安心と、落ち着く雰囲気を感じる。出来る事での自信は畑作業できっと自分自身で感じ取っているのでしょう。落ち着き、柔らかな雰囲気は利用者だけでなく訪問している人も落ち着かせてくれる。 畑づくりを介して、近所の人々との触れ合いが出来て来ている。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	建物、大きな床間のある畳の部屋、庭池がある、外に出ると自分達の畑がある。利用者が小さい時から過ごした馴染みある家を感じてしまう。そんな環境が自然に落ち着かせ、この生活に馴染んでいくのではないだろうか。職員と利用者の関係、土地柄、利用者同士の関係が今までと変わることなく穏やかに過ぎていくのが、より落ち着いた雰囲気を出しているのだろう。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		